

# 伊東市長、タイ訪問

## プーケット観光で温泉開発提案

### 2 国間農産物貿易拡大に期待示す

外国人観光客にも人気の高い静岡県伊東市の佃弘巳市長が2月10日から14日の日程でタイを訪問。インド洋大津波により甚大な被害を被った観光業の復興を進めているプーケットに対して温泉開発による観光付加価値引き上げを提案するなどした。また、伊東市の街並みを彩るプーケットの仕入先農場とは交流拡大のほか水質改善など環境対策でも支援していく方針を確認した。同市長のタイ訪問は昨年次いで2度目となる。

(倉林義仁記者)

佃市長は2月10日、タイ南部プーケットのカマラビーチに建立されたインド洋大津波犠牲者法要慰霊碑を参拝後、タイ国政府観光庁(TAT)プーケット事務所、プーケット県庁、プーケット市役所を表敬訪問。副知事、副市長らとリゾート観光政策、防災などについて意見を交換した。

2004年12月26日にプーケットなどタイ南部を襲ったインド洋大津波では約23万人の死者・不明者を出し日本人も28人が犠牲となった。そして今に至るも完全には復興しておらず、そのためかつての世界的リゾートをどのように立て直すかを今回協議した。プーケット側は日本からの直行便がなく



イースタンアジア大学で講演を行う佃市長

なったことで日本人観光客が減少しているとして、プーケットは地熱が暖かくプーケットには噴火跡もあることから地質調査など日本の進んだ技術を持ち込むことで温泉開発につながる可能性を指摘。プーケットを訪れる観光客に人気のスパで温泉を取り入れることで観光商品に付加価値を与える

ことも観光施策の選択肢になりうるという。今回は防災面での日本の支援も話題となった。プーケットでは警報伝達体制の整備が今も課題となっているが、伊東市を含む伊豆半島では横の連携確保などのノウハウが蓄積されており、防災訓練も年2回実施するなど組織化が進んでいる。佃市長は「日本のノウハウのうちタイで実施可能なモノ

を伝えていきたい」との考えを示した上で、災害対策には「共助の精神を普段からしっかりと植えつけることが不可欠」と強調。さらに、「それは高齢化社会に向けて横の連絡を強化することにもつながる」と指摘した。

#### 花咲くいづ湯の町

伊東市のキャッチコピーは「花咲くいづ湯の町」。伊東市では街の美化のため路地につる性の熱帯花木で鮮烈で美しい花を咲かせるプーケットを模して設置している。桜の開花時期は3月から4月。それに続く4月から10月にかけてプーゲ

ンピリアが街行く人の目を楽しませる。そのプーゲンピリアを3年前から仕入れていたのが、タイの首都バンコクに隣接するパトゥムタニ県の農場だ。今回の訪タイでもこの農場を視察。4月に伊東に向けて出荷される苗木200本を確認した。伊東市では4月に企業も協力して大々的な植え替えを行うという。

今回の農園視察では農園整備のため水質改善も提案。日本の高い水質検査、水質改善技術を活用した農産物品質改良への協力も申し出た。なお、同農場から

【第2面に続く】

### 【第1面から続く】 伊東市長、タイ訪問 プーケット観光で温泉開発提案

は3年前よりマンガの苗木を輸入し伊東市の温泉熱を利用して栽培。観賞用として鉢植えで販売している。果実はネットで保護し、落ちそうになったら今度には食用とする。佃市長は、伊東市とタイの間での農産物貿易の今後の拡大に強い期待感を示す。

#### サイクリング アクティビティ

佃市長は最終日の14日、バンコクに隣接するパトゥムタニ県のイースタンアジア大学(EAU)を訪問。同大学の日本語科学者を前に伊東市における観光・国際交流の取組みをテーマとする講演を

行った。伊東市を訪れる外国人は年間約10万人。中国、台湾、韓国が上位3カ国であり、タイ人観光客はまだそれほど多くない。ただ、タイ人観光客獲得に熱心な佃市長はタイ人観光客誘致のための差別化施策としてサイクリングアクティビティの充実を提案する。そのためサイクリングコースの見直し・維持を市をあげて行いたいと考えた。競技

用および一般用自転車トラック・コースがすでに整備されている伊東市では、18年の世界自転車競技大会、20年の東京オリンピック・パラリンピック自転車競技の会場となることが決まっている。今も駅前では自転車有料レンタルしているが、今後は推奨ルートを提案するなどして観光客に積極的に自転車コースを開放していくことを検討している。

なお、伊東市とタイとの観光交流では、タイ国際航空在職時、日本市場を担当し多くの日タイ路線が就航させた実績をもつパండిット・チャナパイ元副社長も協力を申し出ている。

佃市長のインド洋大津波犠牲者法要慰霊碑参拝には、NPO法人PLAJA(プラジャ)の菅家弘道理事長、伊東市国際交流協会の立馬歳郎副会長らが同行した。PLAJAは16年に日本でNPO法人の認証を受け、プーケットで地域交流促進および外国人長期滞在者の生活安全をサポート。またインド洋大津波の犠牲者慰霊碑の管理および慰霊祭開催など世界津波の日のイベントなどを実施している。

